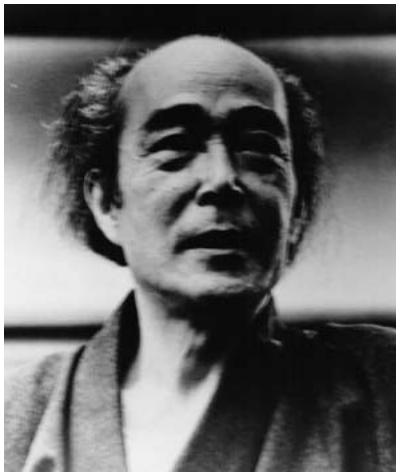


なかむら
中村

くさた お
草田男 (1901~1983)



俳人。清国(現、中華人民共和国)福建省廈門^{あまい}に生まれる。本名は清一郎。愛媛県立松山中学校(現、県立松山東高等学校)時代は、学生間で愛読されていた回覧雑誌『楽天』の同人になり、後の映画監督の伊藤大輔や伊丹万作と友好を深める。その後、東京帝国大学文学部(現、東京大学)に進み、在学中の昭和4(1929)年、高浜虚子を訪ね師事し、俳句を学ぶ。また虚子の勧めで東大俳句会に入会すると共に、『ホトトギス』同人となり、後に石田波郷らとともに「人間探求派」と呼ばれた。戦後、月刊俳詩『萬緑』を創刊し、自他の生き方を求め、主客融合の象徴の自在境に到達し、思想詩としての俳句を結晶させた。

略歴

明治34(1901)年7月24日	父の任地である清国福建省廈門の日本領事館で生まれる。
明治37(1904)年	帰国し、伊予郡松前町に住む。
明治39(1906)年	松山市に転居
大正3(1914)年	愛媛県立松山中学校に入学し、伊丹万作らの同人誌に加わる。
大正10(1921)年	愛媛県立松山中学校卒業。松山高等学校(現、愛媛大学)入試に失敗。西欧文学を読みふける。
大正14(1925)年	東京帝国大学文学部独逸文学科に入学する。
昭和4(1929)年	高浜虚子を訪ね師事し、東大俳句会に入会
昭和8(1933)年	大学を卒業し、成蹊学園に就職
昭和14(1939)年	石田波郷、篠原梵らと座談会に参加し、人間探求派とよばれるようになる。
昭和21(1946)年	月刊俳誌『萬緑』創刊
昭和28(1953)年	句集『銀河依然』刊行
8月	亡母の納骨のため帰郷
昭和34(1959)年	石田波郷、星野立子とともに「朝日俳壇」選者となる。
昭和35(1960)年	現代俳句協会幹事長となる。
昭和36(1961)年	現代俳句協会幹事長をやめ、俳人協会を創立、会長となる。
昭和45(1970)年	日本万国博覧会のタイムカプセル収納品に句集『長子』が選ばれる。
昭和58(1983)年8月5日	82歳で永眠
昭和59(1984)年	日本芸術院恩賜賞受賞

(写真提供：中村弓子氏)

〈関連図書〉

- ・中村草田男『銀河依然』 みすず書房 1953年
- ・中村草田男『風船の使者』 みすず書房 1977年
- ・中村草田男『長子』 みすず書房 1978年
- ・中村草田男『中村草田男全集』 俳人協会 1990年
- ・中村弓子『わが父草田男』 みすず書房 1996年
- ・「中村草田男 人と作品」編集委員会『えひめ発百年の俳句－郷土俳人シリーズ⑦ 中村草田男 人と作品』愛媛新聞社 2002年

〈主な収蔵資料〉…(P227, 141)

〈ゆかりのある場所〉…(P313~314, 200~202)